

# 松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成27年7月】

■調査概要（データ対象期間：平成27年7月1日～7月31日）

○調査期間：平成27年7月31日～8月25日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業23企業、製造業20企業、卸売業17企業、小売業39企業  
飲食業16企業、サービス50企業（運輸、不動産仲介業を含む）  
<合計165企業>

○調査項目：7月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価  
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

# 概況

## 業況DI・水準DIともにマイナス幅が縮小

### 1. 業況判断

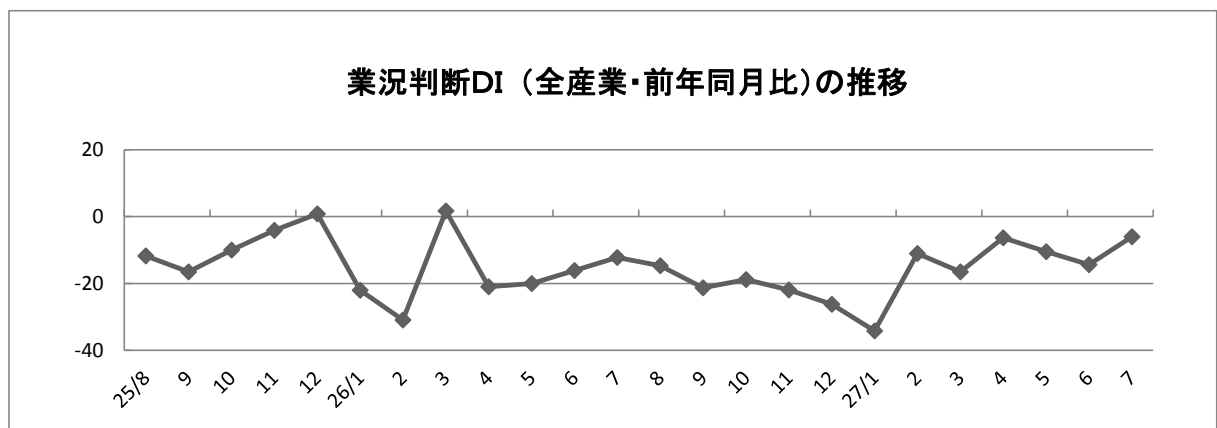
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲14.4）よりマイナス幅が8.4ポイント縮小し、▲6.0となった。業種別では、サービス業、製造業がマイナスからプラスに転じ、卸売業がマイナスから0となった。小売業はマイナス幅が縮小し、飲食業、建設業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲30.0）よりマイナス幅が19.1ポイント縮小し、▲10.9となった。業種別では、製造業がマイナスからプラスに転じ、卸売業がマイナスから0となった。飲食業、小売業、サービス業はマイナス幅が縮小し、建設業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	15.2 (10.0)	63.6 (65.6)	21.2 (24.4)	▲ 6.0 (▲ 14.4) ↗	15.2 (6.9)	58.7 (56.2)	26.1 (36.9)	▲ 10.9 (▲ 30.0) ↗
建設業	4.3 (4.2)	56.6 (79.1)	39.1 (16.7)	▲ 34.8 (▲ 12.5) ↘	4.3 (4.2)	65.3 (66.6)	30.4 (29.2)	▲ 26.1 (▲ 25.0) ↘
製造業	20.0 (13.6)	70.0 (50.0)	10.0 (36.4)	10.0 (▲ 22.8) ↗	25.0 (13.6)	65.0 (40.9)	10.0 (45.5)	15.0 (▲ 31.9) ↗
卸売業	17.6 (18.8)	64.8 (56.2)	17.6 (25.0)	0.0 (▲ 6.2) ↗	11.8 (0.0)	76.4 (62.5)	11.8 (37.5)	0.0 (▲ 37.5) ↗
小売業	15.4 (8.1)	53.8 (54.1)	30.8 (37.8)	▲ 15.4 (▲ 29.7) ↗	17.9 (5.4)	38.5 (48.7)	43.6 (45.9)	▲ 25.7 (▲ 40.5) ↗
飲食業	12.5 (14.3)	56.2 (64.3)	31.3 (21.4)	▲ 18.8 (▲ 7.1) ↘	6.3 (14.3)	62.4 (42.8)	31.3 (42.9)	▲ 25.0 (▲ 28.6) ↗
サービス業	18.0 (8.5)	74.0 (78.7)	8.0 (12.8)	10.0 (▲ 4.3) ↗	18.0 (6.4)	62.0 (65.9)	20.0 (27.7)	▲ 2.0 (▲ 21.3) ↗

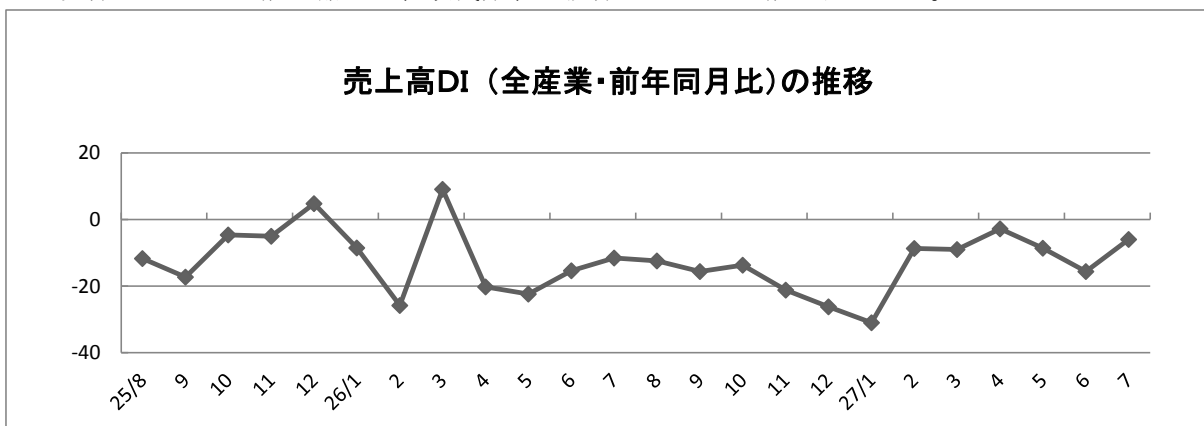
( )内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計  
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



## 2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲15.6）よりマイナス幅が9.6ポイント縮小し、▲6.0となった。業種別に見ると、サービス業、製造業がマイナスからプラスに転じた。卸売業、小売業はマイナス幅が縮小し、飲食業、建設業はマイナス幅が拡大した。

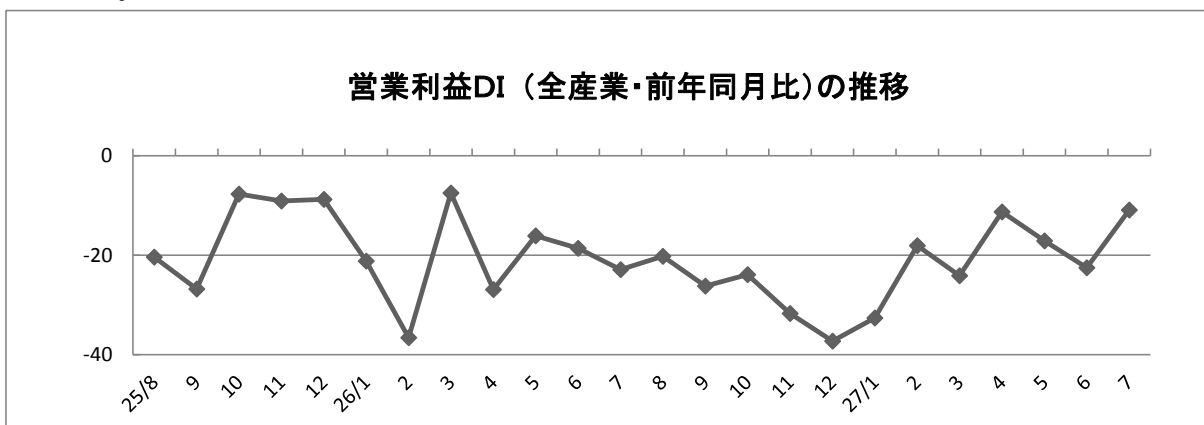


**【対前年同月比売上高業種別DIの推移】**

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全 体	▲11.5	▲12.4	▲15.6	▲13.7	▲21.2	▲26.2	▲31.0	▲8.7	▲9.0	▲2.8	▲8.6	▲15.6	▲6.0
建設業	12.5	5.9	▲14.3	▲13.4	▲6.7	▲17.7	▲37.5	▲31.3	▲6.2	▲15.0	▲16.0	▲12.5	▲30.4
製造業	▲19.0	▲28.6	▲10.5	▲23.5	▲33.3	▲19.1	▲30.0	▲13.0	▲25.0	5.0	0.0	▲13.7	15.0
卸売業	▲12.5	▲5.9	0.0	▲12.5	▲43.8	▲31.3	▲25.0	▲6.3	▲26.7	0.0	▲25.0	▲18.8	▲11.7
小売業	▲29.2	▲7.7	▲37.0	▲27.0	▲29.2	▲50.0	▲48.3	▲11.5	▲16.6	▲21.2	▲20.0	▲27.0	▲18.0
飲食業	▲10.0	▲44.4	▲50.0	▲20.0	▲30.0	0.0	▲22.2	27.3	8.3	▲8.4	6.7	▲7.1	▲12.5
サービス業	▲5.8	▲10.2	0.0	3.1	▲5.0	▲24.3	▲19.5	▲5.7	5.0	14.7	0.0	▲10.6	10.0

## 3. 営業利益DI（前年同月比）

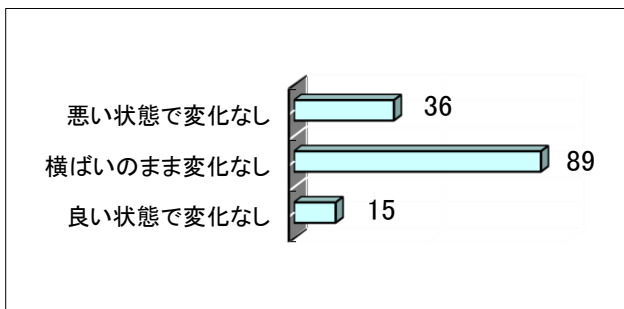
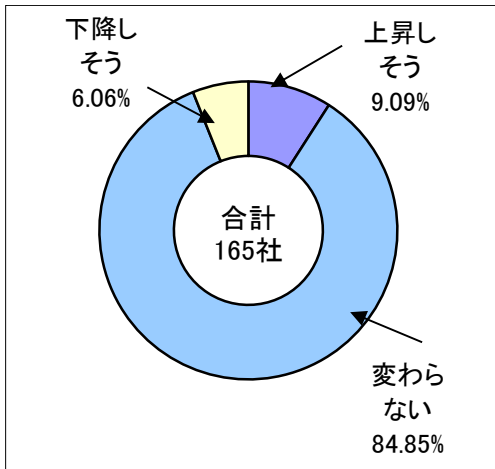
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲22.5）よりマイナス幅が11.6ポイント縮小し、▲10.9となった。業種別に見ると、卸売業、製造業がマイナスからプラスに転じ、サービス業がマイナスから0となった。小売業はマイナス幅が縮小し、建設業、飲食業はマイナス幅が拡大した。



**【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】**

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全 体	▲22.9	▲20.2	▲26.2	▲23.9	▲31.7	▲37.3	▲32.6	▲18.1	▲24.1	▲11.3	▲17.1	▲22.5	▲10.9
建設業	▲12.5	▲17.6	▲42.9	▲33.3	▲13.4	▲35.3	▲37.5	▲31.3	▲25.0	▲20.0	▲32.0	▲33.3	▲39.2
製造業	▲33.3	▲38.1	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲28.6	▲35.0	▲26.1	▲45.0	▲10.0	▲30.4	▲31.9	15.0
卸売業	▲18.7	0.0	▲20.0	▲25.0	▲56.3	▲62.5	▲37.5	▲31.2	▲40.0	▲6.2	▲18.7	▲6.3	5.8
小売業	▲33.3	▲15.4	▲40.7	▲27.0	▲29.2	▲41.7	▲34.5	▲19.3	▲30.0	▲39.4	▲17.1	▲29.7	▲20.5
飲食業	▲20.0	▲44.4	▲60.0	▲30.0	▲40.0	▲36.4	▲33.3	27.3	0.0	▲16.7	▲6.7	▲7.1	▲31.2
サービス業	▲17.1	▲17.9	▲2.7	▲15.1	▲20.0	▲29.7	▲25.0	▲14.3	▲10.0	14.6	▲6.1	▲17.1	0.0

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



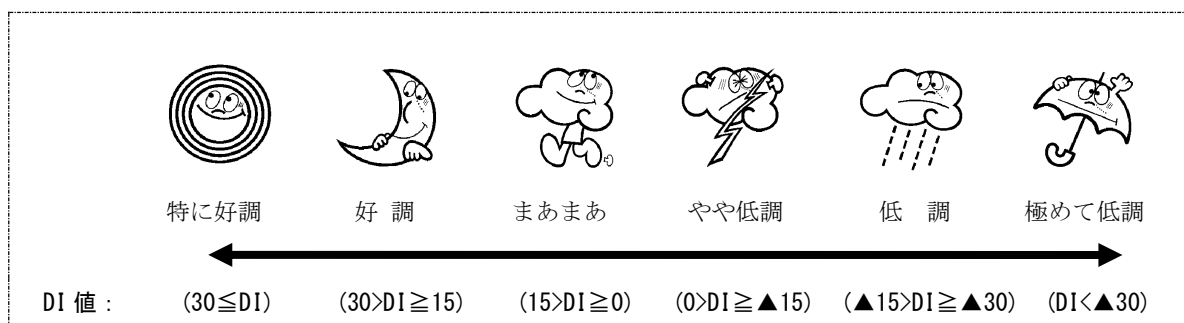
○平成27年8月～平成27年10月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ1.59ポイント増加し9.09%、「下降しそう」が1.44ポイント減少し6.06%となった。業種別の見通しDIは建設業(8.7)、製造業(▲5.0)、卸売業(0)、小売業(▲7.7)、飲食業(12.5)、サービス業(10.0)であった。

➡「上昇しそう」では、「6、7月の売上高大幅減を回復させる」「公共事業の発注がありそう」(建設業)、「受注量の増加が見込めるため」「新しい受注があるため」(製造業)、「秋に向かって上昇しそう」(卸売業)、「夏休みやお盆など、人出が多くなるため」「お祭り、お盆等行事が多くあるため」「夏休み、秋の大型連休シルバーウィークがあるため」(飲食業)、「夏の観光シーズン、秋の婚礼シーズンに入るため」「景気が良いから」「検収済みプロジェクトの回収、および9月以降の引き合いがあるため」「ハイシーズン中、また9月の連休もあるため」「秋から新しい講座を開講予定のため」(サービス業)といった声が寄せられた。

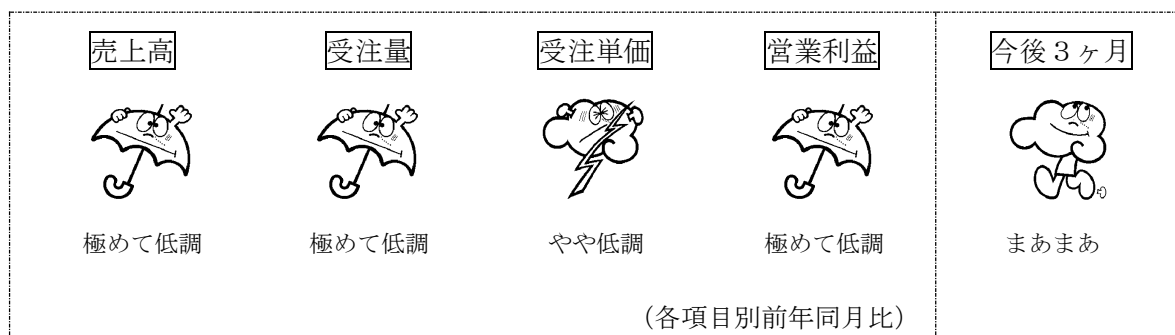
➡「下降しそう」では、「受注量が少ない」(建設業)、「引合件数、見積依頼件数が減少気味であるため」「受注減」(製造業)、「先行手配を受けることが少なくなっているため」(卸売業)、「観光シーズンに入り、印章の需要が極端に落ちるため」「ハイシーズンが終了し、来季の準備期間となるため」(小売業)、「マスコミ露出効果が薄くなってきたため」(飲食業)といった声が寄せられた。

# 業種別景況

## <DI君の景況判断>



## 1. 建設業



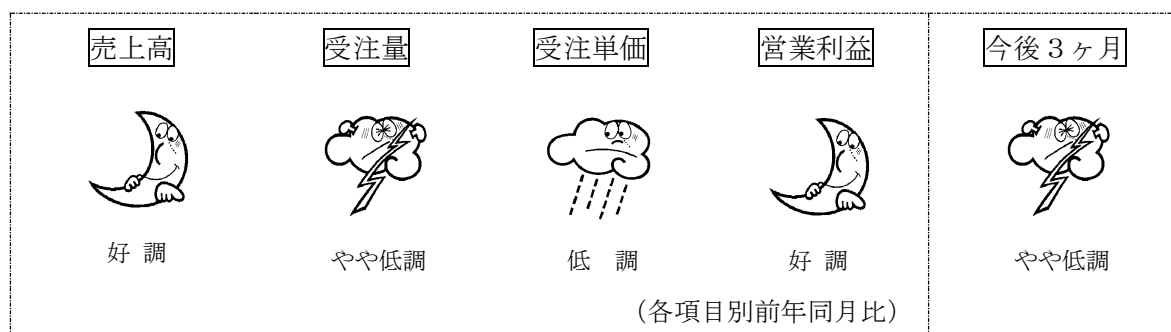
【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	12.5	5.9	▲14.3	▲13.4	▲6.7	▲17.7	▲37.5	▲31.3	▲6.2	▲15.0	▲16.0	▲12.5	▲30.4
受注量	6.3	▲11.7	▲21.5	▲33.4	▲13.3	▲47.0	▲43.8	▲31.2	▲18.8	▲15.0	▲12.0	▲20.8	▲34.8
受注単価	▲12.5	▲11.7	▲14.3	▲26.6	0.0	▲17.6	▲18.7	▲6.3	▲6.2	0.0	8.0	▲12.5	▲8.7
営業利益	▲12.5	▲17.6	▲42.9	▲33.3	▲13.4	▲35.3	▲37.5	▲31.3	▲25.0	▲20.0	▲32.0	▲33.3	▲39.2
見通し	▲18.8	▲11.8	0.0	▲6.6	0.0	▲5.9	▲6.3	6.2	6.3	▲5.0	4.0	▲8.3	8.7

## <経営者の目・見方・etc>

- タイル  
 管工事
  - ・材料費の値上がり分が利益に影響している。
  - ・お盆前ということから、完成工事が重なり集中した。公共工事でも少し出始めたが、今年は予算が少ないらしい。あまり期待が出来ない。
- 建築工事  
 総合建設
  - ・公共の仕事がなかなか無い。
  - ・国の公共工事に対する補助金の決定が遅れたことと、補助金削減のため、第一四半期の発注が極めて少なかった。今後、発注はされていくが、特に市町村では補助がつかないため、発注を取りやめにする工事もある。前年度並みの受注は期待薄である。
- 鉄工
  - ・まだまだ財布の紐が堅い気がする。
  - ・人手不足感が見られる。鉄骨単価は改善が進んでいるが、稼働率は若干動きが悪くなっている。この先10月、11月と鈍くなってくるが心配はなさそうだ。
- 電気工事
  - ・今年度分の各町会防犯灯LED化が終了。これといった大型物件がなく、静かな状況が続いている。
- 土木工事
  - ・地方はオリンピック不景気である。
  - ・中信地区の公共事業発注状況が悪い。例年並みとは言っているが、補正予算は大北・木曽の災害復旧へ。前倒しも27年度は数少ないため、業者の手持ち工事は極端に少ない。

## 2. 製造業



【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 19.0	▲ 28.6	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0
受注量	▲ 19.1	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 44.5	▲ 19.0	▲ 35.0	▲ 17.4	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 5.0
受注単価	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 31.6	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 20.0
営業利益	▲ 33.3	▲ 38.1	▲ 26.3	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0
見通し	▲ 9.5	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 11.7	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 20.0	5.0	8.7	0.0	▲ 5.0

### <経営者の目・見方・e t c>

- |       |   |
|-------|---|
| 印刷    | ・この夏は暑すぎて、外出する人が少ない。  |
| 菓子    | ・予想外に成績の良い7月であった。前半の気温が低かった為と思われる。  |
| 金属塗装  | ・5、6月の悪い状況からは多少良くなったが、昨年同月よりは悪い状況である。原材料、燃料価格の高騰が採算を圧迫している。   |
| 酒類    | ・猛暑が続いたため、観光客の動きが鈍かった。海の日を過ぎてようやく若干のにぎわいが出てきた感がある。材料費がじわじわ上がってきている。容器類、ダンボール・紙製品など、5～10%の値上げ要請がきている。その分を価格転嫁することは難しい。 |
| 製版・印刷 | ・メーカーから9月より価格改定(値上げ)の通知があった。製版資材は15～20%の値上げとなる。   |
| 木製品加工 | ・仕事量が少ないため、元請業者が下請けへ仕事をまわせない。   |

## 3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 12.5	▲ 5.9	0.0	▲ 12.5	▲ 43.8	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7
販売客数	▲ 12.5	▲ 23.5	▲ 13.3	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 23.5
販売客単価	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 18.7	▲ 12.5	0.0	18.7	0.0	0.0	0.0
営業利益	▲ 18.7	0.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8
見通し	▲ 6.2	▲ 11.8	0.0	0.0	▲ 6.3	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.0	6.3	0.0	▲ 6.3	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

- 機械工具
  - ・昨年の7月があまりにも売上が良かったせいか、今年は普通でも悪く感じる。顧客の経営状況は良いところと悪いところの差が大きく、まだまだ良いところの方が少ない。
  - ・上昇の気配はない。横ばいならば良いが、先行きは不透明である。
- 金属製品
  - ・オリンピック関連の見直しにより、全体的に後ろ倒しとなっている。地元製造・加工業者は、小口案件を含め年内まで仕事量は確保されている。
- 青果
  - ・7月中旬までは相変わらずの曇天、降雨であったが、梅雨明けの頃から急激な高温、干ばつとなり、果実・野菜ともに状況が変わった。猛暑日が続く、スイカ等の果実はかなり不足気味となった。ただし、高温の為、果実・野菜ともに畑で不良となってしまうものもあり、今後に不安を与えている。
- 土産品
  - ・例年のような、夏休み期間になると販売が好調になるといった状況が感じられない。松本地区の観光地は集客が落ちているようだ。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 29.2	▲ 7.7	▲ 37.0	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0
販売客数	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 44.5	▲ 42.4	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 41.4	▲ 30.8	▲ 40.0	▲ 12.1	▲ 5.7	▲ 24.3	▲ 10.3
販売客単価	▲ 8.4	▲ 11.5	▲ 33.3	▲ 11.5	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 31.1	3.8	▲ 13.3	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 16.2	▲ 12.8
営業利益	▲ 33.3	▲ 15.4	▲ 40.7	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5
見通し	4.1	▲ 3.8	▲ 3.7	▲ 7.7	0.0	▲ 8.3	6.9	3.9	6.7	6.1	2.9	2.7	▲ 7.7

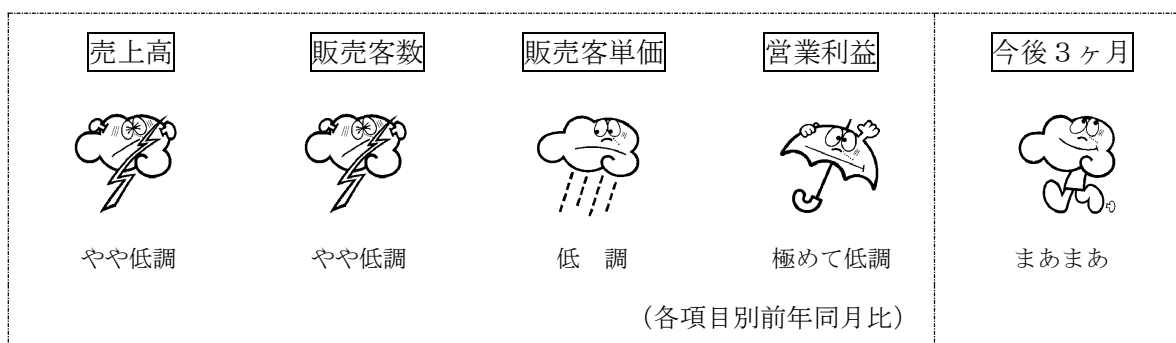
<経営者の目・見方・e t c>

- ショッピングセンター
  - ・7月の客数は前年を上回ったが、売上はほぼ前年並みとなった。お客様の消費スタイルの変化により、8月に売上がシフトする傾向が年々強まっている。
- タイヤ
  - ・中古車の売買を中心とした大手自動車ディーラーの松本進出による近隣の整備工場への影響が気になる。
- パン
  - ・気温が高く、お客様の来店が少ない。
  - ・暑くなると売上が鈍る業種だが、今年の35℃前後の暑さは我慢と覚悟が必要になる。

衣料品・雑貨 印章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアム商品券利用客なし。</li> <li>・日本の印章は世界に誇れる文化であり、後生に伝承されるべき財産であり、技術である。にもかかわらず、この印章文化を理解せずに受け入れてしまう多くの機関があることが残念である。</li> <li>・松本を舞台にしたコミック「orange(オレンジ)」が実写映画化されると発表があった。映画の公開が12月ということなので、来年の聖地巡礼に期待したい。松本山雅のホームゲームの日に街の中を歩くアウェイサポーターがかなり増えている。</li> </ul>
化粧品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月前半は来店数・単価共に前年よりアップしたが、後半は酷暑のため来店客数がやや減少となった。</li> <li>・高齢者、小さな子供のいる主婦は例年になく暑さで、外への買物は足が遠のいている。</li> </ul>
菓子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月前半は良くなかったが、20日過ぎから観光客が増え始めた。暑い日が続く、商品の動きが悪かった。</li> </ul>
観光物産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として観光バス(日本人)の動きが悪い。国道を走っている車を見ても県外車の動きが悪い。</li> </ul>
住宅機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しくなってきたため、ホッとしている。</li> </ul>
書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国チェーン店や地方チェーン店の業績も非常に悪いようだ。業種によらず、個人消費の落ち込みが直撃している。「入るを量りて出ざるを制す」を徹底して乗り切りたい。</li> </ul>
書籍・木のおもちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアム商品券は今の書店業界においては売上を増やす起爆剤にはなっていない。個人消費の低迷は当分続くと思われるので、長期的な売上対策を考えていきたい。</li> </ul>
生鮮食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上旬は動きが鈍かったが、暑くなるにつれ売上も伸びていった。プレミアム商品券を利用するお客様が多い。</li> </ul>
陶磁器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑い日が続いたが、街なかのイベントも多く、空梅雨気味だったため客足が伸びた。景気が回復しそうな手応えはないが、全ての部門で前年の売上を超えることができた。</li> </ul>
文具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間でも最も良くない時期に入り、店舗は暇であった。8月も良くないと思われる。</li> </ul>
味噌・しょうゆ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑で人出が少ない。</li> </ul>
薬局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日陰はないのかとお客様からよく言われる。水は豊富なので、モーターを使って打ち水のようにできたら涼しくなるのではないかな。</li> </ul>



## 5. 飲食業








【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 10.0	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5
販売客数	▲ 10.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 11.1	36.4	8.3	0.0	6.7	▲ 7.1	▲ 6.2
販売客単価	▲ 10.0	▲ 22.2	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 9.1	▲ 8.4	▲ 16.7	▲ 13.3	▲ 21.4	▲ 25.0
営業利益	▲ 20.0	▲ 44.4	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2
見通し	0.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 27.3	0.0	36.4	16.7	16.7	▲ 6.6	14.3	12.5

### <経営者の目・見方・etc>

- |       |   |
|-------|---|
| カレー   | ・暑い暑いとお客様が言うとおりの、前年より暑い日が多く、人出も多い日と少ない日があったが、週末には多くの来客があり、まずまずの1ヶ月であった。   |
| そば    | ・とにかく暑い毎日で、生ビールの売上は絶好調である。  |
| レストラン | ・天候の影響による食材価格の高騰が心配。  |
| 郷土料理  | ・7月に入っても観光客の減少は続き、静かであった。   |
| 仕出し料理 | ・暑い日が続く、地場の青果が徐々に値上がりし、種類、量も減ってきた。気温、湿度ともに高くなるので衛生面に注意を払った。   |
| 寿司    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に販売されたプレミアム商品券を利用するお客様がかなり来店し、期待以上であった。今後は使用期限終了間近に多く利用されると思われる。いずれにしても15億円分の商品券が使用されるのだから、少しでも景気が良くなることを期待する。</li> <li>・夏期観光シーズンの本格的な始まりとともに、県外客とインバウンドの増加が目立つ。松本プレミアム商品券は、利用目的があるお客様と普段使いのお客様と大きく2つに分かれるが、7月に入っても引き続きご利用を頂いている。しかし、前回と比べると全体の発行総額から期待するほどの利用はなく、特に単価の低い店舗にとっては500円券がない事が大きく影響しているものと推測される。</li> <li>・多少、県外のお客様が増加しそうである。</li> </ul> |
| 創作料理  | ・利用客は増加したが、料理・飲み物代込みというお客様が多い。夏の暑さも加わり、酒量(生ビール)が増えるため、その負担が大きい。   |
| 料理    | ・暑さの中、地元のお客様の動きが悪い。宴会が少ない。  |

## 6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヶ月
				
まあまあ	まあまあ	やや低調	まあまあ	まあまあ
(各項目別前年同月比)				

### 【項目別DIの推移】

	26年7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲ 5.8	▲ 10.2	0.0	3.1	▲ 5.0	▲ 24.3	▲ 19.5	▲ 5.7	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0
販売客数	▲ 11.4	▲ 7.7	0.0	▲ 21.2	▲ 15.0	▲ 21.6	▲ 25.0	▲ 11.4	▲ 2.5	12.2	2.1	▲ 14.9	4.0
販売客単価	▲ 2.8	▲ 5.1	▲ 5.4	▲ 6.1	▲ 10.0	▲ 5.4	▲ 11.1	▲ 11.4	▲ 2.5	4.9	0.0	▲ 4.2	▲ 2.0
営業利益	▲ 17.1	▲ 17.9	▲ 2.7	▲ 15.1	▲ 20.0	▲ 29.7	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0
見通し	2.9	0.0	0.0	▲ 6.1	▲ 2.5	0.0	2.7	14.2	0.0	2.5	▲ 2.0	0.0	10.0

### <経営者の目・見方・etc>

#### ソフトウェア

- ・販売状況等を分析するために Excel のスキルを持つ人の需要が高くなっていると聞く。これはレガシーなシステムのアウトプットが企業活動のスピードに追いつけなくなっている証拠である。よりシンプルで汎用的なシステム設計とデータの扱いに精通した人材が求められる。

#### ペットサービス

- ・来店数、売上共に前年並みであった。暑い日が続くとカットのお客が増加傾向である。引き続き8月も社員の健康管理に注意したい。

#### 獣医

- ・犬猫とも平均寿命は15才前後を目標とするようになり、高齢動物が多くなってきた。それに伴い高齢疾患も増え、例として腫瘍(癌)なども見受けられる。癌治療にはお金がかかるが、日本獣医がん学会等があり、治療法も日進月歩し、獣医師の高レベルな知識で寛解する率も高くなっている。

#### ホテル

- ・インバウンドのお客が増え、宿泊は好調。それに比べ、宴会の売上がなかなか上がらず、単価も上昇しない。
- ・宴会については大型の受注もあり、好調に推移したが、小規模の会議利用が減ってきていることが懸念材料である。
- ・宿泊、宴会ともに売上が上昇した。サッカーサポーターの宿泊が増え、驚いている。

#### 旅館

- ・仕入値が上昇し、利益が少なくなっている。

#### 温泉旅館

- ・7月は毎年小動きだったが、今年は10年ぶりの良い売上が記録した。長野県は(暑い日が続いたが)安定した天候に恵まれ、インバウンドの動きもまざまざだった。
- ・好天に恵まれ、イベント・学会等も影響したのか、宿泊客増加。猛暑により、クーラーの使用が多く、電気料が最多になりそうだ。
- ・梅雨明けし、その後は猛暑が続いているが、入り込みは伸びなかった。都会の猛

	<p>暑が一般の観光客の出控えをさせ、登山客は好天のため稜線へと上がっていつてしまった。最近では夏休みの繁忙期でも外国人観光客の宿泊が増え、特に今年はフランスのお客様が多い。</p>
マッサージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好景気と感じる。人手不足も解消された。</li> </ul>
マナー講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場は毎年静かな状況。秋よりブライダル関係の仕事が入り、少し上向きになりそうだ。</li> </ul>
介護サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス利用料(自己負担分)1割が倍になった。利用者の悲鳴が聞こえ始めた。利用回数減少につながる。事実上の利用抑制で介護保険法の改悪がやってくるのではないかと。</li> </ul>
機械設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注が少なく、厳しい状況がもうしばらく続きそうだ。</li> </ul>
測量・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業の発注が少ない。</li> </ul>
自動車整備・板金塗装	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暑い日が続く、人の動きも少なくなっているように思う。当業界は7月が特に仕事量が少なくなる月である。利益を上げられるように工夫が必要になる。</li> </ul>
専門学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人が少ないとされる事務職でも雇用情勢は改善しており、求職者支援訓練における事務系職務への就職率は向上している。</li> </ul>
保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバー制度への関心が少しずつ高まってきている。</li> </ul>
美容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お盆前までは忙しい日が度々あったが、その後は静かな日が多くなってしまった。毎年の事ではあるが、夏にうけた髪のパダメージケアを更にうち出しながら客単価UPを図りたい。</li> </ul>
理容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の夏は非常に暑く、気温の上昇と共に売上も伸びた。</li> </ul>
ホームクリーニング・リネンサプライ業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内、中信地区の観光客の入りは対前年107～108%であった。</li> </ul>

